



日豪交流年に参加

日豪友好協力基本条約締結30周年を迎えた今年を「2006年日豪交流年」と位置づけ、文化・芸術・スポーツなど幅広い分野での交流事業が行われています。

石巻市の「はねこ踊り」が10月14日(土)、オーストラリア・シドニーのタンパロンパークで踊りを披露しました。この他に、よさこい踊りや阿波踊りなど10団体が参加し、シドニー市内の舞踊団体と競演しました。

まちの交流 はねこ踊り in オーストラリア

文化の交流から こころの交流へ



10月14日、オーストラリアのシドニーで、「2006年日豪交流年記念事業日本の祭りイン・シドニー」が開催されました。これは、日豪友好協力基本条約締結30周年を記念して行われ、市の無形民俗文化財である「はねこ踊り」の保持団体「寺崎はねこ踊り保存会(会長・佐々木一さん)」の会員など38人が参加しました。

当日、会場には、地元市民や観光客、日本からの応援者など30,000人以上が来場し、一日中、日本各地の伝統芸能を楽しみながら、文化の交流が行われました。

● シドニー



はねこ踊りの伝承

はねこ踊りは、桃生町に江戸時代から伝わるといわれている伝統民俗芸能です。

度重なる凶作に見舞われていた村が、何年ぶりに予想もしない豊作に恵まれたときの人々の歓喜の様子を、田打ちから稲刈りまでの一連の動作とリズムミカルな囃子で表現した「豊年踊り」です。

躍動感あふれる踊りで、石巻地方の方言で「飛ぶ」を意味する「はねる」と「人」を意味する「こ」を合わせ「はねこ」、「はねこ踊り」と呼ばれています。

「ブラボー」の声に満足感

はねこ踊りは、午後1時と5時の2回の出演で、特に2回目の出演には、会場に人だかりができるほどの大人気でした。ステージの前では、囃子のリズムに合わせ、踊り手の動きをまねて踊る子ども達もいました。

会場では、大きな声援や会場いっばいに広がる拍手とともに「ブラボー」の声がかけられました。軽快なリズムとダイナミックな踊りが観客の心を捉えていました。

現地に住んでいる邦人の方からは、「純真な踊りスタイルに心を打たれました。踊りはシンプルで、そして楽しくて、本当に感動しました」と感想をいただきました。



▲現地の人々とはねこ踊りで交流を深めました
(スパスティックセンター)

心の交流

日本の祭りの出演を終えたはねこ踊り保存会の皆さんは、シドニー市郊外にあるスパスティックセンター（身体障害者施設）を訪れ、はねこ踊りの講習会を行いながら交流を深めました。

当日は、施設に入所している方やその家族、職員など約100人が参加しました。講習会では、実際にはねこ踊りを見ていただき、その後、踊りと囃子に別れて講習会を行いました。片言の英語と身振り手振りでの指導でしたが、参加者は楽しそうに学んでいました。最後には、参加者と保存会が一緒に



▲トントコトコ…、軽やかな「はねこ」のリズムを刻むことはできるかな（スパスティックセンター）

なって踊りました。はじめは、太鼓の音に不安を表していた障害者の方も、次第に音に合わせて体を動かすようになり、軽快なリズムと踊りを通して、言葉や文化を越えた「心の交流」が芽生えました。



▲一糸乱れぬ踊りに観客も釘付け



会場あふれんばかりの観客が
集まりました

心のふれあいが大切

寺崎はねこ踊り保存会は、昭和42年に設立し、現在30人の会員と、愛好者や青年会で組織されています。海外での公演は今回で2回目となり、1回目は、平成4年に開催のシンガポール最大の祭り「チンゲイパレード」に参加し、海外の方々との交流を深め、日本の伝統文化を紹介しました。



寺崎はねこ踊り保存会
会長 佐々木 はじめ さん

10月12日から17日にかけて行われた、オーストラリア・シドニーでの「はねこ踊り公演・講習事業」では、日本の祭りの公演のほか、現地の方々とのさまざまな交流を図ることができました。文化・芸術に国境はなく、心のふれあいを大事にすれば、「必ず相手に理解していただける」「相手を理解できる」ということを改めて実感させられました。

保存会は、設立から早40年を迎え、桃生地区を越え、市内のさまざまなところで出演させていただいております。今後も地域発展のため、微力ながら協力していきたいと思っております。